

道東地域の金融経済概況

【全体感】

道東地域の景気は、弱い動きとなっている。

すなわち、公共投資は、幾分減少している。設備投資は、高水準で推移している。住宅投資は、横ばいとなっている。個人消費は、弱い動きとなっている。生産は、持ち直している。労働需給は、引き締めつつある。

この間、短観でみた企業の業況感は、悪化している。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症や国際商品市況の動向が管内の経済活動全般に及ぼす影響を注視していく。

【前回からの変化】

項目	前回変化	基調判断	
		前回	今回
全体判断	↘	道東地域の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から、厳しい状態にあり、持ち直しの動きが足踏みしている。	道東地域の景気は、弱い動きとなっている。
公共投資	↘	横ばい圏内の動きとなっている。	幾分減少している。
設備投資	→	高水準で推移している。	高水準で推移している。
住宅投資	→	下げ止まっている。	横ばいとなっている。
個人消費	→	弱い動きとなっている。	弱い動きとなっている。
生産	→	持ち直している。	持ち直している。
雇用	→	引き締めつつある。	引き締めつつある。

※ 前回変化「↑」、「↓」は、前回判断に比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化したことを示す（例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは「↑」）。なお、前回に比較し景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は「→」となる。

1. 需要項目別動向

公共投資は、幾分減少している。

公共工事請負金額は、前年をやや下回った。

設備投資は、高水準で推移している。

道東地域の3月短観における2021年度および2022年度設備投資計画は、新型コロナウイルス感染症の影響から慎重な投資計画となっている先がみられるものの、一部先で需要獲得を企図した戦略投資がみられ、全体では前年を上回る計画となっている。

ただし、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響などを背景とする不確実性が高いことから、今後の投資実行状況を注視していく必要がある。

住宅投資は、横ばいとなっている。

新設住宅着工戸数は、持家、分譲、貸家いずれも前年を下回った。

個人消費は、弱い動きとなっている。

主要小売店売上高は、内食需要から堅調となっている。

耐久消費財をみると、乗用車新車登録台数（含む軽）は、普通・小型乗用車、軽乗用車ともに前年を下回り、全体としては前年を下回った。家電販売は、弱い動きとなっている。

旅行・観光関連をみると、主要温泉地の宿泊人数、市内ホテルの宿泊人数は、弱含んでいるほか、空港乗降客数は、低調に推移しているとみられる。

2. 生産

生産は、持ち直している。

主要生産品目別にみると、乳製品は生乳生産量の増加を背景に、高水準で推移している。水産加工品は取扱い魚種で生産水準にばらつきがあるものの、総じてみれば持ち直しの動きがみられている。

3. 雇用

労働需給は、引き締まりつつある。

4. 企業倒産

企業倒産は、倒産件数、負債総額ともに前年を下回った。

5. 金融情勢

預金残高は、個人預金の増加から前年を上回っている。

貸出残高は、概ね前年並みとなっている。

貸出約定平均金利は、既往ボトムの水準で推移している。

以 上

(注) 道東地域とは、当店の業務区域（釧路、帯広、根室の3市および釧路・十勝総合振興局、根室振興局の所管区域）を指す。